

栽培種目：メロン

マスクメロン 2 種栽培

チーム名：メロン栽培切込隊隊長

氏 名：足立 徳雄

〈要約〉

マスクメロン 2 種（アムスメロン、タカミレッド）1 苗から 1 果栽培の立体仕立て栽培に挑戦する。

温室栽培が基本であるが、専業農家の栽培を参考にしながら工夫とアイデアで家庭菜園レベルでの栽培に挑戦した。（インターネットのブログ等参考）

しかしながら後 1、2 週間で収穫との時期に蔓枯れ症状が出て全滅した。

1. 初めに

2 種のメロン各 3 本の内 1 本を支柱仕立てとし他は地這栽培とする。一本仕立ては 1 苗 1 果で他は一苗 2 果取りと考えた。

2. 方法

栽培の主な過程は、

畑の準備→定植→整枝作業→支柱建て
→蔓の誘引→交配作業→初期肥大期→
摘果→玉釣り→硬化期→収穫

畝幅 150cm, 株間 45cm で 6 本と考え植穴底に肥料（牛糞・化成・草木灰）ダイアジノン散布した。また地温を上げるため二重マルチにし栽培開始した。

3. 結果

畑の準備(4 月 28 日作業)

元肥についての記述は見つかりませんが、スイカ栽培で元肥の効果を確認しているので応用してみた。

・直径 30 cm 深さ 30 cm で穴を掘り 20 cm 程度の深さに土を戻し穴に牛糞スコップ 1・鶏糞スコップ半分・野菜の土スコップ 1（バーク堆肥）化成肥料（8・8・8）軽く一握りを投入しよく混ぜ埋め戻す（客土）。

地中温度は午前 5 時の最低地温 15°C 以上と安定が定植時に必要との事。

畑の準備（5 月 3 日作業）



マルチを二重に敷き地温を上げるためビニールシート（D2 で車のトランクに敷く無料配布のビニール）でカバーした。

温度計穴を 15 cm 掘り、100 均で購入した温度計で地温を確認する工夫をした。



5月6日作業 朝5時地温 20°C 外気温 19°C と確認。7時30分より定植開始。



トンネル栽培として防虫ネット使用。ビニールをもう1つのトンネル支柱に取り付けスライド式に着脱可能に工夫し温度調節する様にした。(二重トンネル)

露地の為マルチで昼間葉が焼ける事の防止と水の滞留(マルチ面)を防ぐ目的で敷き藁を全面施設した。



5月8日 早朝5時の外気温 5°C で遅霜害は免れたが、スイカは油断から遅霜の被害を受け一部葉が霜害を受けた。

5月19日 整枝作業



双葉や孫蔓は整枝しましたが摘芯はせず様子を見ながら育成する事とした。



整枝作業後スッキリとした苗

支柱を立てる作業中にウリハムシの飛来を確認したので防虫ネットで全体を覆う事にした。



5月28日 メロンの授粉作業

雌花の花弁を取り去り、同じく尾花の花弁を取り除き花粉を雌花の先端にまんべんなく授粉させる。



双葉とその上の本葉一対をカット子蔓をカット

5月27日 支柱建

支柱を3本建て、メロン苗を2本誘引した。(立体仕立て2本)

支柱間に支柱を安定させるのとメロンを吊るために3段細いロープを張る。誘引作業は遅れ気味と感じた。

9節ほど成長しており、もう少し短めで誘引(4~5節)が良いと思われる。



1本仕立ては9節ほどの成長だが、地這苗は10節以上成長し、充実した結果枝がみられることや自然受粉した実が確認できたので、授粉作業を試みた。

授粉作業は午前8時まで完了させる。地這3本で5個ほど受粉させた。

授粉作業の日のタグを取り付けた。(収穫時期の確認の為) 授粉させた雌花の先の葉を1枚残し先端を切る。



6月4日 5月28日受粉作業後の結果
6月16日 病気の発生



6月6日
1本仕立ては背丈が1.7mを超えた為摘芯。また地這についても摘芯した。



葉の症状

前日の大雨の後早朝午前6時頃には特に変化はなかったが、夕方16時に圃場確認のところアムスの1株が写真のように枯れだした。

枯が見受けられる株の様子(蔓割れ病?)他の4株には今のところ症状は出ていない。換気の為保温のためのビニール掛けせず翌日様子を見ることとした。



6月26日 葉が変色し枯出す。

6月16日の病気発生確認から、一雨ごとに症状が進行した。すべての株に病気が発生し葉が枯れこんでしまった。



7月5日 圃場の様子



7月5日 根の状態

回復が絶望的で処分することにした。
もう少し（後2週間程度）生存していれば収穫可能と思われたが残念な結果であった。

大きめの果実2個はコンポート（砂糖煮）とシャーベットにして食した。

4. 考察

6月7日飯岡のメロン圃場見学に行きました。地植え栽培2本蔓で、4個収穫方式の圃場でしたが、メロンの葉と茎が非常に大きく牛糞堆肥と思われる堆肥が良く効いた畑でした。また、葉や蔓がスッキリと整理されていた。

10月9日

（公財）園芸植物育種研究所を訪問しメロン栽培について指導を受ける。

・初心者が陥る点

多肥・苗の発育不全・根を張るための十分な温度と水管理をポイントとして教示を受ける。

5. まとめ

今回失敗について研究所の指摘によれば、

- ・苗の生育不全と定植時期の遅延。
- ・元肥を入れたことは多肥の元であり失敗につながることに成った。
- ・敷き藁をすることはマルチの効果を減少させかつ病原菌の住みかとなりうる。
- ・このため根の発育が十分でなく果実が成育するタイミングで力尽き一気に枯込む事となったと指摘された。

病気によるものであればもう少し時間をかけて枯込んで行くと教えられた。